車止めふと目をやれば窓の辺のくずの葉戦ぐ白露の風に
宇多津　次屋カナ子

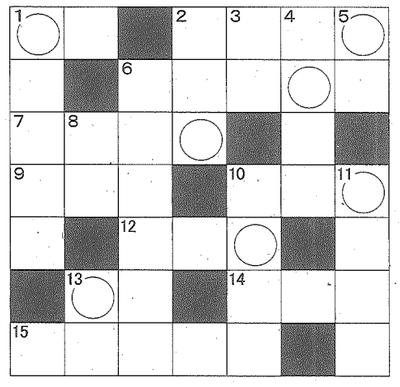
樹木の香かくも好ましき木材店に暮らせる今も
東かがわ　砂川　亮子

田植え、炎天での草取り、水の見回り等々、米作りには88回の手間を掛けるという。刈る稲の株を握った時のしっかりとした手応えに豊作を確信した作者。

筆硯に墨をつぎたす良夜かな
観音寺　岩田　君美

【評】風に秋を感じるようになってくると、こころも身体も心地良くなるようである。が、食欲の秋で、相手は食欲がすすむ秋である。負けないでと、

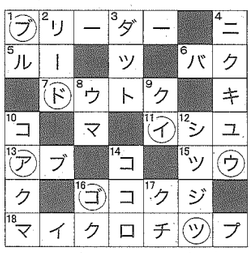
yomiクロ



はがきに○印の文字を組み合わせた解答（ことば）と、郵便番号、住所、氏名、年齢を書いて、12日（必着）までに〒760・0017、高松市番町1の10の21、読売新聞高松総局「パズルの係」にお送りください。正解者の中から抽選で10人の方に図書カード（1000円）を差し上げます。正解と当選者のお名前は、15日付の本欄で掲載します。

参考ヒント「偉業が続々と発表されています」

たてのカギ
①首都がオスロの国
②小さい紙に名前、職業、住所などを印刷したもの。――交換
③木星の第1衛星
④リンゴの果汁を発酵させた酒
⑤「早牛も――、遅牛も――」とは、行き着くところは同じなので慌てても仕方がないということ
⑥ニトログリセリンを含む爆薬
⑧桃太郎が犬、猿、キジを家来にしたとき与えたのは――だんご
⑩アインシュタインが提唱した――性理論
⑪放射能の単位。記号Bq
⑬「くまのプーさん」に登場するカンガルーの親子。息子の名前は

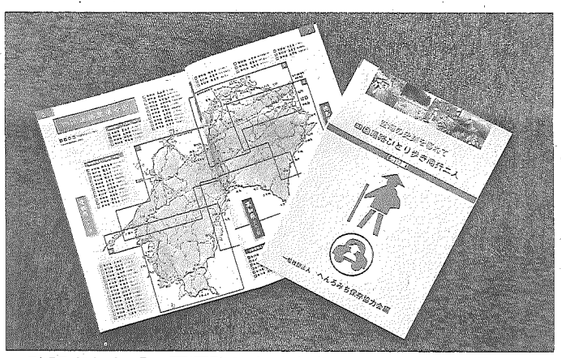


前回の答えは〈ドウブツアイゴ〉（動物愛護）でした。108通の正解の中から次の皆さんが当選しました。
吉田敏男、森康浩（以上高松）石川涼子（丸亀）小橋博文、黒川秀子（以上坂出）小中紀夫（善通寺）北山眞也（三豊）高畑弘、山下和子（以上宇多津）四宮和明（まんのう）

よこのカギ
①――アワビ、――袋
②景色や歴史的背景などで知られている場所。――旧跡
⑥LED＝発光――
⑦河床にある石で、全体が埋まらず下を水が流れているもの。魚が産卵する場所にもなる
⑨神奈川県にある日本最大級のサービスエリアは、――サービスエリア
⑩シャーベットをフランス語で
⑫人間の力ではなしえない不思議なことを行う術
⑬土などを重ねて作った陣地。とりで
⑭卸売市場などで使われる3輪の小型運搬車の通称
⑮エンジンで走る二輪車を指す和製語

遍路ガイド本 地図充実

保存協力会改訂版 札所間の距離実感



改訂された「四国遍路ひとり歩き同行二人（地図編）」

一般社団法人「へんろみち保存協力会」（松山市）が、四国八十八か所霊場を歩いて巡る人らに親しまれているガイドブック「四国遍路ひとり歩き同行二人（地図編）」の改訂版を完成させた。9月から通信販売を始めており、同会は「早く新型コロナウイルス禍が収束し、巡礼する多くの人の手助けになれば」としている。

ガイドブックは、遍路道の整備に取り組む宮崎建樹さん（松山市）が、道中の目標物や休憩場所、宿などを地図に記載し、1990年に自費出版した。2010年に宮崎さんが事故死したため、遺志を継ぐ同会が総合印刷「セキ」（同）の社内に事務局を構えて内容を更新している。

19年以来の改訂となる今回は、地図の充実に力を入れた。これまで全図は、札所を中心とした略図のみだったが、実際の四国全図を記して各札所間の距離を実感しやすくした。

また各県の地図のほか、愛媛県南部、高知県西部といった複数の遍路道があるエリアについては拡大図を表記。各ルートの距離も示し、歩く時の参考になるように工夫した。

道しるべなどの情報も更新し、今年7月現在の宿泊施設約630か所も盛り込んだ。コロナ禍による巡礼者の減少、オーナーの高齢化などで廃業した宿も多く、前回の改訂から約60軒減少した。一方で、若者が民家を改装してゲストハウスをオープンするなどし、新たに約30軒を掲載した。

山間部などでは、大手バス会社の路線がなくなり、自治体によるコミュニティーバスに切り替わったケースも増加。地図に記載するバス停の情報収集などに苦労したという。

B5判144㌻で2550円（税、送料込み）。購入は同会のウェブサイト（https://blog.iyohenro.jp/）か、電話（089・945・0108）で注文する。

読売新聞高松総局に情報、ご意見をお寄せ下さい。
takamatsu@yomiuri.com

讃岐の風

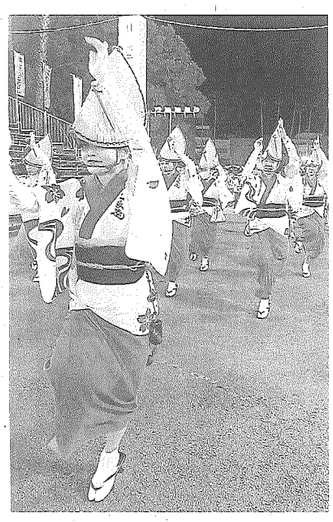
3年ぶり 本場の熱気満喫

大阪を拠点にする阿波おどりグループ「南大阪連」（安東圭介連長、約50人）が、今夏の徳島市の阿波おどりに3年ぶりに参加した。「やはり徳島は最高」。メンバーは久しぶりの本場の熱気を満喫した。

このコーナーで何度か登場した友人の中田浩一さん(61)（徳島県美波町）は、実は私とともに南大阪連のメンバー。ともに大阪勤務だった頃、ここで知り合った。

最初は2人とも男踊りで、「下手くそコンビ」と呼ばれていたが、中田さんは途中から大太鼓に転身。連員は、中田さんのように徳島出身者もいれば、ゆかりのない人も多い。踊りのレベルも、熟練者もいるが、私のようにいつまでも初心者マークが取れないメンバーもいる。それでも受け入れてくれるところが、この連のいいところだ。

その後、東京勤務になった中田さんが、古里にUターンすることを決意した理由の一つには、より阿波おどりに深く触れたいという思いがあった。「有名連の人たちと知り合う機会が多いし」。そう言いながら本場ではなく、大阪の南大阪連に参加している。「阿波おどりが好きだけど、連の仲間がもっと好きなのかもしれない」と中田さん。



上 大太鼓で出演した中田さん（中央）ら
下 踊りを披露する南大阪連のメンバーら

◇

今年の徳島市の阿波おどり（8月12～15日）は、新型コロナウイルスの影響で、有料、無料の演舞場を各2か所にするなど例年より縮小して行われた。南大阪連は、コロナ禍の前までは、連単独で出演してきたが、今年は「関西阿波おどり協会」の一員として合同での踊り。連員は、事前にPCR検査をし、移動時のマスク着用などを決めて臨んだ。

13日の当日。街全体が踊りで沸き上がっている。大阪、兵庫などの同協会所属の連とともに2か所の演舞場で踊った。鉦の音に合わせて笛や太鼓のお囃子「ぞめき」が鳴り響く。通天閣や住吉大社などの絵をあしらったそろいの浴衣が一斉に躍り込んだ。

「ヤットサー」。ふだんは高張り提灯をかついでいる連の最高齢・水崎良雄さん(86)は、今回は踊り手として出場。観客席から「おっちゃんがんばって」と声援が届き、うちわを振りながら「まだがんばるで」と応えている。「これが生きがい。死ぬまで踊るで」

2会場での出演を終え、中田さんの浴衣は汗でびっしょり。「本場で参加できてうれしい。もっと上達して来年も出場したい」と満足そうだ。

◇

今年は、コロナ禍で中止になっていた各地の祭りの多くが再開された。伝統の文化、芸能を守るという意義から開催に踏み切ったところも多い。それに祭りは、古里と人々を結ぶ。祭りがあるからその土地を離れられない人、中田さんのように戻ってくる人。地元でなくても大切なものになることもある。早く自由に祭りを堪能できる日々に戻ってほしい。そう願いながら、笛や太鼓の音がまだまだ鳴り止まない街を振り返った。

（上田昌義）

おめでとう募集

お子さんやお孫さんの顔写真を掲載し、メッセージを添えて誕生日を祝福する「おめでとう」コーナーへの投稿を募集しています。対象は3歳まで。顔写真に氏名（ふりがな）、生年月日、住所、保護者名、メッセージ（10字以内。続き柄と名前も）、電話番号を添え、誕生日の10日前までに最寄りの読売新聞販売店（YC＝読売センター）か高松総局へ。

【投稿規定】季語や時候は投稿時のもので可。はがき1枚に3首（句）以内。住所、氏名、電話番号を明記して〒760・0017、高松市番町1の10の21、読売新聞高松総局、さぬき文芸「俳句」「短歌」「川柳」係（087・861・4350）へ。未発表作品に限る。二重投稿は厳禁です。

【特許】第6087060号
集水井工・深礎工・下水立坑工事等の新兵器
セーフティガイドレール
セーフティガイドレールとは？
立坑内の土砂や仮設資材などを搬入搬出するとき、ライナープレートにレールを取り付け、土砂運搬時はベアリングでガイドレールをサポートしながら、一定の位置でバケットの揚重作業を行う技
国土交通省 新技術情報提供システム NETIS登録！ NETIS 登録 NO.
株式会社 日
美術品と
買います